

読む人の幸せを心に願って作る

喜びの 夕ネまき新聞

No.602

〈起業家精神〉

会社やお店に勤めておられる方、公務員として仕事をされている方、そして新しく事業を興して起業される方など、世の中には様々な働き方があり、それぞれの仕事によって社会が動いているのだと思います。

ダスキンでは、清掃用具のレンタルをはじめ家事の代行やミスタードーナツなどの様々な事業があり、それらに事業加盟され、起業家として活動している方が多くいます。その方たちに起業された思いを伺うと、「会社を大きくしたい」というだけでなく、「この仕事が社会の役に立つから」という声を聞きます。

しかし、起業されてから事業が軌道に乗るまでの道のりには様々なご

苦労があると思います。お客様の数もゼロからのスタートですので最初はご縁を作ることから始まり、そして、ご縁ができたお客様とは一日でも長くお付き合いが続くよう、また、お役に立てるよう努力を重ねておられます。

そのようなお話を伺い、「起業家精神」とは「社会や周囲の人のお役に立ちたいと願う精神」だと思いううになりました。たとえ起業家でなくとも、日頃の暮らしの中で「この行動が社会の役に立つのか」「周囲の人に喜ばれるか」と問いかける「起業家精神」を持つよう心掛けていきたいと思えます。

株式会社ダスキン社長

山村輝治



下城の大イチョウ〈熊本県〉

※イラストはイメージです

群馬が誇る、ふるさとの宝物 上毛かるた、好きだよね。

群馬県民なら誰もが
 諳んじられる上毛かるた

「つる舞う形の群馬県」「裾野は長し赤城山」「日本で最初の富岡製糸」。これらはいずれも群馬県の歴史や自然、文化などが詠まれた「上毛かるた」の読み札です。驚くことに、群馬県民なら老若男女を問わず誰もが全ての札を暗唱できるそうです。

上毛かるたの歴史は、1947年にまで遡ります。戦後まもなく皆が意気消沈していた当時、後に二松学舎大学学長に就任された浦野匡彦さんの「群馬の子どもたちを元気づけてあげたい。そして故郷の魅力を伝えたい」との想いから誕生しました。題材は新聞紙上で公募し、寄せられた272句から現在



1972年、前橋中央公民館(当時)での上毛かるた大会の様子
 出典：ブログ「群馬の観光や名物と上毛かるた」

の44句が選出されたそうです。そのうち2句の札だけピンクに色づけられているのは、当時の厳しい社会情勢に対する「負けなぞー」との想いが込められたからとのこと、今もその2枚だけ色がついています。
 誕生からあつという間に県内に広まった上毛かるたは、今

ではどの家庭にも1セットはあると言われ、各地区の子ども会で熱心に練習が行われているほど盛んです。群馬県の小学生の間では、成績が良い子や走るのが速い子よりも、上毛かるたが強い子の方がクラスの人気者になれるのだとか。毎年2月には、小学3年生から中学生を対



象にした県大会が行われるため、各地区では出場を目指して秋頃から週に2〜3回は練習が行われています。

また、2013年からは大人のための上毛かるた大会も開催されるようになりました。大会を立ち上げたのは、一般社団法人KING OF JMK代表理事の渡邊俊さん。「世代を問わず盛り上がる上毛かるたなのに、なぜ大人の大会がないのだろう?という素朴な思いがきっかけでした」。

渡邊さんの提案にはすぐに賛同する人が集まり、半年後には東京・銀座にある群馬県のアンテナショップ「ぐんまちゃん家」で



一般社団法人 KING OF JMK 代表理事の渡邊俊さん

第1回大会が開催されました。参加者は群馬在住の人だけでなく、今は県外で生活している人や、孫と一緒に上毛かるたを楽しむみたいと他府県から来た人も。「皆の表情は真剣そのもので、揃いのTシャツやハチマキで参加するチームもありました。優勝チームが最後の札を手にした時に涙を浮かべていたのが感動的で、それがモチベーションになって毎年続いているんです」と渡邊さん。懐かしいふるさとの光景が目につくか、読み札、絵札の数々。上毛かるたは多くの人と人の想いを結びつけています。

離れていてもつながれる
 郷土愛の結晶

渡邊さんは活動を通じて、世代を超えて群馬の素晴らしさを伝えていきたいと語ります。「私のように県外で暮らす群馬出身

者が集まった時、上毛かるたは必ず話題にあがります。たとえば「力あわせる二百万」という札があるのですが、この数字は群馬県の人口を表していて、70年前は百六十万と書かれていました。何万人で覚えているかで、その人のおよその年齢が分かるのも群馬県民ならではの「子どもから大人まで楽しめる上毛かるたは、まさに群馬の誇り。いつも話題の中心にあり、ふるさとを離れていても、郷土を愛する心を思い出させてくれるかけがえのない宝物なのです」。



子どもたちの上毛かるた競技県大会が開催される

前橋市関根町周辺 はこんな街



毎年、小・中学生の県大会が開かれる上毛かるたの聖地

横室の大カヤ
 推定樹齢1000年以上のカヤの巨木

敷島公園はら園
 北関東最大級、600種のバラが咲き競うばら園

前橋文学館
 日本近代詩の父、萩原朔太郎の像も

臨江閣
 1884年に県の迎賓館として建てられた近代和風建築。今年、国指定重要文化財に

登録有形文化財の電動木馬が人気

上毛とは群馬県の古称。郷土の魅力が詠まれた上毛かるたは、読み札の裏にそれぞれの説明が記されている

飛田和緒さんの
からだにいい
季節ごはん

秋が深まるにつれて食べたいくなる里芋のお料理。
下処理が面倒なイメージですが、旬の味は格別です。



ひと手間かけると、おいしさ倍増!
茹で加減は自分の口で確かめて



飛田 和緒(ひた かずを)さん

料理家。1964年、東京都生まれ。現在は神奈川県でご主人と娘さんの3人で暮らす。身近にある四季折々の食材を使った家庭料理や保存食を基本に、独自のアイデアを盛り込んだ手軽に作れるレシピが人気。2014年に料理レシピ本大賞を受賞し、ベストセラーとなった「常備菜」(主婦と生活社)など著書多数。

掘りたての
里芋が届きました。

長野に住む実家の母から、秋になると掘りたての里芋が届きます。土がついた状態で送ら

れてきますので、まずは水洗いして土を落とし、ざるにあけて水気が乾くのを待ちます。

里芋はぬめりがあるので、皮を乾かしておくことで皮がむきやすくなるのです。この皮をむく作業が苦手という方も多いですね。そんな時にはレンジで軽く加熱してからむくと柔らかくむけます。皮をむいたら、乾いた布でゴシゴシと表面を強くこする。または米の研ぎ汁に浸けておく。塩をまぶしてゴリゴリと芋同士をこすり合わせるなど、下処理にはいろいろな方法があります。が、どれも程良くぬめりは残る状態です。しっかりとぬめりをとってしまいたい時は、米の研ぎ汁に浸けておき、そのまま火にかけて下茹でして、水でぬめりを洗ってから改めて出汁の中で煮るのがいいでしょう。

私の好みは布でゴシゴシする程度。そして最初から出汁などで煮て、里芋の表面が割れるくらいしっかりと煮るのが好き



布巾や厚手のキッチンペーパーでこすると丁度良いぬめり加減に

ん。ですから、煮上がりをみる時は口に入れて実際に食べてみるのが一番だと思っています。

里芋のいいところは、箸ですくと割れ、口に入ればとろりと舌にまとわりつく、ねっとりとした食感。茹でたものに塩をひと振りしたり、甘めの味噌をつけて田楽風にして食べたりするのもおいしいですよ。出汁だけで煮て最後に塩を加えた、塩味だけの里芋の白煮。これにまだ青いゆずがあれば皮を削って散らし、黄ゆずがあれば皮を薄くむいて千切りにして散らすのもいいですね。ゆずの香りと里芋がよく合います。イカと一緒に醤油をしつかりと含ませた煮物も

定番。醤油色に輝く里芋が食欲をおおいにそそってくれます。この季節の我が家では、出汁だけで煮た里芋を常備菜として冷蔵庫に入れてあります。お味噌汁の具にしたり、1センチ幅くらいに切つてネギと生姜と一緒に炒めたり、素揚げにすると香ばしさも加わって、また違った味わいが楽しめます。つぶしてマッシュサラダやコロッケに다使つていくと、たっぷり煮た里芋があったという間になくなるんですよ。今回のレシピは、娘が今一番気に入っている鶏つくねとの煮物をご紹介します。鶏の出汁を煮含めた里芋の味をぜひお試しください。

里芋と鶏つくねの煮付け



- 材料 (4~5人分) =====
- 里芋8~10個
 - 鶏ひき肉350g
 - 玉ねぎ1/3個(みじん切り)
 - 塩小さじ1/2
 - あらびき黒こしょう適量
 - 薄口醤油小さじ1
 - 片栗粉大さじ1
 - 青菜適量



- 作り方 =====
- 1 里芋は皮ごと洗ってざるにあげ、水気をとる。
 - 2 Aを合わせて練り混ぜ、つくねを作る。
 - 3 里芋の皮をむき、乾いた布で表面をこする。
 - 4 大きめの鍋に里芋と、浸るくらいの水を入れて中火にかける。ふっふっしてきたら弱めの中火にし、落とし蓋をして柔らかくなるまで煮る。
 - 5 串が通るくらいになったら、2をスプーンで一口大にすくって加える。煮汁が少なくなっていたら、水を加える。
 - 6 肉に火が通り、里芋が鶏の出汁を含んだら、煮汁の味を塩でととのえ、火を止めて味を染みこませる。
 - 7 食べる時に温め直し、茹でた青菜を添えて盛り付ける。

ほほえみのひろば



収穫の秋

福島県いわき市 根本 ミサ子さん

小春日和のある日。小学2年生と幼稚園児の孫たちと一緒に芋掘りをしました。掘りやすいように私が蔓を刈って鍬を入れてあげると、孫たちは懸命に掘り起して「僕のは7本もついていた!」「僕のは6本!」と大はしゃぎ。20本植えた苗も、1時間ほどで全て掘り終えてしまいました。そして、収穫したお芋はバケツに入れ、しっかり後片付けまでしてくれて、その姿に頼もしさをおぼえました。掘りたてのお芋は早速ふかして、皆でおやつタイム。おいしいーおいしいーと楽しい収穫祭を味わいました。

自分の手で収穫したお芋の味は格別! 来年の秋も、今から楽しみですね。



イクメンにエールを!

愛知県名古屋市長 山田 美帆さん

私は毎朝、バスを降りてから10分ほど歩いて通勤しています。その道中では、列になって登校する小学生や急ぎ足のサラリーマン、コンビに立ち寄る人など、様々な人に出会います。中でも私の目に新鮮だったのは、スーツ姿で赤ちゃんを抱っこしている男性。今では「イクメン」と呼ばれ珍しくなくなってきましたが、「昔前には考えられなかった姿ですので、初めてすれ違った時は驚いたものです。腕の中にある赤ちゃんを見ると安心して、パパに抱かれていて、いつも微笑ましく思います。私の娘も、育児真っただ中。頑張るママと、イクメン。パパにエールを送りたいと思います。

一生懸命子育てする親の姿は、いつの時代も格好いい!



還暦の同窓会

沖縄県那覇市 島袋 昌美さん

先日、還暦を祝う同窓会がありました。何十年ぶりかで会う友人も多く、顔を合わせては、皆それぞれ今日まで歩んできた人生があったのだと感慨深くなりました。

しかし一言口を開けば、一気に学生時代にタイムスリップ。そして当時は決まっていたできなかったであろうハグをしたり、「実はあの頃ね…」なんて告白もあつたりと、男女とも盛り上がりました。

「子曰く、六十にして耳順う」とはよく言ったもので、年を重ねるのも悪いことばかりではないなと嬉しい気持ちになりました。

青春時代の友人は、一生の宝物。皆さん素敵な年の重ね方をされているですね。

燈々無尽

相手が喜ぶなら

そうせずにはおれない、といったとき、損得など考えずにやるべきで、相手が喜ぶのであれば一生懸命やろうじゃないかというわけです。

損の道が損ではない、と喜べる人こそ

本当の幸運をつかんだ人です。

喜びをわかれば、喜びがもどります。

ダスキン創業者 鈴木清一



自慢の息子

広島県広島市 平石 康代さん

息子が、出張で地元の広島に帰ってきました。仕事を終えてからの数日間はずっとくりと過ごす予定だったはずなのに、私の代わりに義母を病院に連れて行ってくれたり、白くなった義母の髪を染めてあげたりと、お婆ちゃん孝行をしてくれました。お陰で義母は大喜び。帰りには、「ちよつと早いけど、誕生日にどこか行っておいでよ」と、旅行券のプレゼントまで!

もらった旅行券で、義母をバラ祭りに連れて行ってあげようと思います。

なんて優しい息子さん!

愛情いっぱいのご家族なのが伝わってきます。



手をつなごう

京都府長岡京市 森本 裕枝さん

買い物を終えて、立体駐車場に向かっていた時。私の前に、両手に大きな荷物を抱えたお母さんと、小さな男の子が歩いていました。お母さんは「車が通り過ぎたら横断歩道を渡ろうね」と話しかけていましたが、次々と車がやってきて一向に渡れる気配がありません。そのうち私も追いつき、男の子の隣で待つことに。

すると、男の子がすつと手を差し出してきます。そして自然と手をつなぎ、「一緒に行こうね」と二人の車まで送ってあげました。お母さんは何度もお礼を言ってくれ、私は、その小さくて柔らかな手の感触に幸せな気持ちになりました。

男の子も優しく手をつないでもらって、きつと安心できたんだと思います。



初めてのお手紙

北海道釧路市 平川 れい子さん

先日、5歳と4歳の孫2人を2日間預かりました。すると後日、可愛いお手紙が届きました。「おばあちゃん、いつも遊んでくれてありがとう。大好きなおばあちゃんへ!」

たったこれだけの言葉なのですが、嬉しくて嬉しくて、涙が出そうになりました。他に手作りのビーズ小物なども入っており、思わず「わあ!すごいね!ありがとう!!」と大声を出してしまいました。感動のひとつでした。

おばあちゃんが本当に大好きなんですね!

600号のP4に掲載しました年表で一部誤りがありました。1991年に発売したFメディアシリーズの正しい写真は下記の通りです。訂正してお詫び申し上げます。



愛の輪通信 Vol.2

Information Report

研修生レポート① パキスタン訪問記

ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業 第一期研修終了生 奥平真砂子さん (肢体不自由・笹川平和財団勤務)



日本で学んだ海外の研修終了生たちの「今」をレポートします!

今年の夏、私は研修終了生たちの活動を知るためにパキスタンに渡りました。お会いしたのは、第3期生のシャフィックさんと第13期生のリスワンさん。お二人とも現在、母国で障がいのある人たちの自立支援活動をされています。

現地でまず目に留まったのは、日本語で「リスワン」と書かれたノートパソコン。それは8年前に愛の輪から提供されたものでした。パソコンはもちろん、日本でお世話になった方々や研修生同士の絆も私の財産です。大切にされていることを知り、とても感動しました!



第13期生のリスワン・イジャズさん



愛の輪は、日本とアジアの地域社会のリーダーを目指す障がいのある若者に、海外での研修活動を行っています。このコーナーについてはダスキン愛の輪基金まで。☎06-6821-5270 https://www.ainowa.jp/



あなたのお便りや写真をお寄せください。

皆さまからお送りいただいたお話をもとに新聞を作っています。どうぞ、あなたが体験したうれしかったこと、誰かに聞いてもらいたいことなど、身近な話題をお寄せください。

送り先

〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33
株式会社ダスキン広報部
ダスキン「喜びのタネまき新聞」編集室
e-mail : koho4@mail.duskin.co.jp

投稿には、お名前、ご年齢、ご職業、ご住所、お電話番号、現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。

- 紙面やホームページでご紹介させていただいた原稿や写真にはお礼品をお送り致します。
- お送りいただいた作品は、必ずご紹介できるとは限りません。また、作品のご返却は致しかねますのであらかじめご了承ください。

みてもらわ!

読者の皆さまからお送りいただいた素敵な1枚をご紹介します。

凛々しい袴姿!



岐阜県可児市
多治見 ひとみさん

ネムネム…ZZZ



香川県木田郡
山下 とも子さん

大阪府泉南郡
北本 一美さん

最高の笑顔!



ママも叔母ちゃんも着た着物



千葉県
流山市
松岡
人美さん

神社の看板犬です



宮崎県宮崎市
杉田 かなさん

いとこ同士仲良し♪



山形県
山形市
鈴木 飛鳥さん

No.419からのバックナンバーが下記のアドレスからご覧になれます。

<https://www.duskin.co.jp/tanemaki/>



ダスキンスタッフ募集中!

job.duskin.jp

ダスキンお仕事ナビ

検索



株式会社 **ダスキン**

発行・編集：広報部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

【お客様の個人情報のお取り扱いについて】
お客様の個人情報はご投稿の掲載や、今後の紙面制作に利用させていただきます。なお、お預かりした個人情報はダスキングループと加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。
個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記ダスキンコンタクトセンターまでご連絡ください。

■ダスキンコンタクトセンター

0120-100100 www.duskin.co.jp

57-9C 2018.11 3721500